

全佛通信

一月号

発行所 全日本仏教会
東京都中央区築地
三ノ一(本願寺内)
電話 60 二九六九
60 〇三六九
振替 三三六〇〇
東京 三三六〇〇
発行人 阿部電伝
編集者 伊東堅純
印刷所 ルンビニ社
一部 二〇円

新年にのぞむ

会長 岸 信 宏

あけましておめでたく存じます。全日本仏教会の皆様の御健勝を念じ上げます。新しい年をむかえるごとに私共は覚悟を新たにす。今年こそは一つの目標を定めて進みたいものであります。



世界の和に貢献
現状は自由と共産との陣営が対立し
たまま進んでい

んでいまして、容易に共存と繁栄との調和の世界、平和の世界が実現しそもの宿命とも申すべきであります。しかし私共の心の中に調和と平和とを望む火を消してはなりません。自由と共産との二大陣営が今火を吹いて対立しているのがアジアの一角ベトナムであります。昨四十年の十一月に

越年仏教統一教会化導院長釈心珠師を団長とする一行が来日して、全日本仏教徒との連繫と支援とを切々として訴えられるところがありました。同師は更に全世界の仏教徒の連繫を強化して、世界の平和に貢献



しなればならぬことを強張していられまし。全世界に大きい勢力をもっているクリスト教の博愛の精神によっても、この二大陣営の深刻なる対立を解くことができないうのであります。アジアの光といわれ

ている慈悲の宗教、仏教の精神をもつても、このアジアの動乱を今すぐに解決し得ることは申すことができません。このたびのベトナム動乱の発端は政治を背景にした仏教徒とカトリック教徒との宗教戦争の様相を示したのであります。その際に仏教徒が幾多の焼身僧をも出した悲壮なる起ち上りには同情と敬意とを表せずにはいられませぬ。しかしベトナムの動乱には二大陣営の対立の外に国内の情勢など幾多の困難なる問題が交錯しているものであります。平和を念願する同国仏教徒の要請に対して我々もできるだけの応援をしなければならぬと存じます。わが全日本仏教会にも国際問題を扱う機関もあるわけですから、この上ともその活動を十分ならしめて、アジア仏教徒の連繫を緊密にし、

新年賀謹

財団法人全日本仏教会

- 会長 岸 信宏
- 副会長 即 眞 周 湛
- 同 秋 山 祐 雅
- 同 中 村 大 潤
- 理事長 豊 原 大 潤

常務理事

- 阿部 竜 伝
- 上野 頼 栄
- 小野塚 潤 澄
- 片山 日 幹
- 来馬 道 断
- 小林 大 巖
- 小 剛 一
- 金 剛 秀 周
- 杉 谷 義 弘
- 草 繁 全 弘
- 草 瀬 良 彦
- 山 本 英 彰
- 松 本 德 明
- 華 山 惠 光
- 村 瀬 良 彦
- 草 繁 全 弘
- 杉 谷 義 弘

理事

- 安藤 正 道
- 岡野 秀 峰
- 倉持 弘 義
- 下川 寛 竜
- 須藤 覚 雄
- 佐藤 隆 天
- 高橋 鉄 鏡
- 中西 慈 海
- 中村 壽 顕
- 村上 道 隆
- 森上 諦 円
- 山中 浩 文
- 鶴 岡 隆 浩
- 草津 宜 浩
- 清水 孝 尚
- 杉崎 法 山
- 高 辻 惠 邦
- 後藤 憲 嚴
- 塚原 徳 応
- 中 山 理 亮
- 巖 藤 文 輝
- 宮崎 三 鏡
- 森本 三 鏡

監事

- 春 山 定
- 船 口 陣 子
- 野 々 部 利 行

事務総局

- 事務総長 黒 田 稔
- 総務局長 伊 藤 勝 白
- 組織局長 平 野 曉 祐
- 文化局長 日 野 瑞 護
- 国際局長 阿 部 照 堅
- 国際局長 柳 藤 敬 純
- 国際局長 伊 東 堅 純
- 国際局長 鎌 田 昭 俊
- 国際局長 福 井 清 亮
- 国際局長 古 宇 田 亮 文
- 文化局長 小 瀬 川 美 貴
- 文化局長 森 谷 智 子
- 文化局長 鈴木 美 貴
- 事務局長 鶴 岡 隆 浩
- 事務局長 佐 藤 孝 全
- 事務局長 水 谷 英 紀
- 事務局長 水 谷 英 紀
- 事務局長 川 崎 博 良
- 事務局長 奥 鳥 幸 雄
- 事務局長 白 原 隆 也
- 事務局長 梶 原 秀 雄
- 事務局長 伊 藤 秀 雄

関西事務局

- 事務総長 鶴 岡 隆 浩
- 事務局長 佐 藤 孝 全
- 事務局長 水 谷 英 紀
- 事務局長 水 谷 英 紀
- 事務局長 川 崎 博 良
- 事務局長 奥 鳥 幸 雄
- 事務局長 白 原 隆 也
- 事務局長 梶 原 秀 雄
- 事務局長 伊 藤 秀 雄

浄土真宗本願寺派

- 総務局長 豊 原 大 潤
- 総務局長 神 田 寛 雄
- 総務局長 朝 枝 実 彬
- 総務局長 峰 川 亮 昭
- 総務局長 新 田 一 英
- 総務局長 大 内 察 爾
- 総務局長 大 内 察 爾

さて全仏の事務総局に於ても新局長の下、各部長も一応所管を委更して新発足致しました。

惟うに本年は事業面に於ても第十四回全日本仏教徒会議が愛知県に於て画期的な大会がもたれるのをはじめ、何とか各宗派、県仏等の御協力を得て組織強化と財政措置に配慮致したい事と、時局対策や権益擁護のためにも充分なる手を打たねばならぬと存じます。

又国際間の仏教徒の交流や提携は勿論、可能のかぎり諸宗教との共通の場を拓けて参りたいと思ひますし、マスコミ対策にも一段の配慮と弘報の活発化を念願いたして居ります。

事務総局は各宗からの出身者で構成されて居りますが、小異を捨て、大同につく、いわゆる和の精神を持って鋭意研鑽を怠らず、名実共に全仏たらんとして精進して参りますので、皆々様の理解ある御支援を切に御願申上げ、年頭の御挨拶と致します。

年末年始における雑踏
事故の防止について

(警察庁発)

みだしのことにつきましても、例年格段のご配慮をいただき、幸い近年この種行事における雑踏混乱による事故の発生をみておりませんことは、誠に喜ばしいところでありませう。

しかし年末、年始における人出は非常に多く、とくに神社、仏閣および興行場等は、相当の混雑を

呈しますことはご承知のとおりでありまして、とかく平穩に慣れますと安易な気持ちに陥り、そこから思いがけない大きな事故をひきおこす場合がすくなくないのであります。当庁におきましては、各都道府県警察に対して、年末、年始における雑踏事故の防止について、十分な措置をとるよう通達いたしました。

つきましては、貴会(庁)におかれましては、つぎの事項について格別のご配慮をいただくとともに、傘下各団体に対しまして、しかるべき措置を講じられるよう、ご連絡していただきたくお願いいたします。

記

一、警備員、整理員の配置については、催し物の規模に応じた十分な人員を確保されることにも、事故防止のための適切な要点点配置を考慮されたいこと。

二、催し物の行なわれる場所、施設については、危険防止の観点から事前に検討され、危険と思われる場所または物件については、修理、取り除き等の措置を講じていただきたく、あわせてそれらの場所への収容能力について十分に考慮していただきたいこと。

三、入場、退場の際は、先を争って押し合う等の無秩序な行動をとらせないうよう、適切な整理を行なうことと、あわせて行事内容についても十分検討され、混

乱等を惹きおこすおそれのある催物については、事前に改めるなどの措置をとられたいこと。四、雑踏が予想される場合については、事前に警察に対し積極的に連絡をとり、警察との協力につとめられたいこと。

全仏文化局長に日野師
部長の配置換えも

既報の通り十一月二十四日京都西本願寺において全仏常務理事会で協議され、全仏事務総長以下各局長が決定したが、各部長も次のように配置換えされた。

- 総務部長 阿部 顕瑞
組織部長 柳 了堅
国際部長 近藤 隆敬
文化部長 伊東 堅純
なお、各局主事は夫々留任となつた。

- 総務局主事 福井 清俊
組織局主事 森谷恵智子
国際局主事 古宇田亮文
文化局主事 鎌田 良昭
文化局主事 小瀬川亮晃
雇 員 鈴木 美貴
なお交渉中であつた文化局長には、

文化局長 日野照護師が決定

セイロンで世界仏教大会

セイロンのマウントラピニアにある「世界仏教協会連合」(会長ビンブレ・ソラタ大僧正)では、大乗・小乗両仏教の融和と団結をはかる目的で、一月十九日から三日間、コロンボ市で世界仏教僧伽大会を催す。

真宗木辺派宗務所

- 現正成朗成部
善善教法正形
田田石土生
高豊倉燧瓜
長務務務務
宗参参参参

浄土宗西山禅林寺派

- 俊源道明範
亮孝正恵雄
西田戸野
池篠木源日
長務部長
宗教学部長
財務部長
庶務部長
主事

孝道教団本部
孝道山本仏殿

統理 岡野正道
副統理 岡野貴美子
横浜市神奈川区孝道山

東京仏教団改め
東京都仏教連合会

- 会長 来馬 道断
常務理事
阿部 竜伝 板橋 有成
小川 寛澄 小野 島雄
大川 好雄 神谷 元信
北川 亮宣 栗本 俊道
古川 隆諦 杉本 良智
古川 日芳 中島 明道
室田 日芳 松田 明道
東京都豊島区巢鴨二の二三
高岩寺中
事務局長 神野 真一

神奈川県仏教会

- 会長 高橋 隆天
事務局長 能登 有兆
外役職員一同

福岡県仏教会

- 会長 二十二 鉄鎧
副会長 大坪 秀関
副会長 佐々木 義徳
副会長 星野 栄徳
副会長 甘蔗 良淳

第十四回全日本仏教徒会議

愛知大会を引受けて

愛知県仏教会長 竹田 鉄 仙

第十四回全日本仏教徒会議の大会をお引受けしましたについて、ご挨拶をかねて全国仏教徒各位のご協力をお願い致したいと存じます。



思うに
現代程新興宗教が種々多く勃興した時代はな

く、中には邪教というべきものも多く存在しています。これは一般大衆の宗教に対する無知不明もさることながら、求めて与えざる既成宗教側にもその責のあることを認めなければなりません。

かつて、カンタベリー大主教フイシャー博士は、キリスト教の統一を期してローマを訪問し、ヨハネス二十三世との会見に端を發してより、新旧各教会間に統一の萌しが現われたと伝えられているが、少くとも仏教々団はこの際大同團結をし「仏教は一なり」のスローガンを掲げ、全仏教徒は総闘起して大いに破邪顕正の実をあげ、正法の宣揚と流布とに勇猛精進し、この思想的宗教的危機を排除しなければならぬと思うのであります。

以上の感激から、泉仏教会役員

並びに全県下の寺院担信徒各位の賛同を得て、来る四十一年六月三日(金)四日(土)第十四回全日本仏教徒会議愛知大会を、わが愛知県でお引受け致し、名古屋で開催することになりました。

古来愛知県は、所謂の仏教国と称せられていますが、寺院数、仏教徒数はもとより、その熱烈な信仰心は泉人の精神生活の基調となつて今日に至つたのであります。その意味におきましても来るべき大会を機会に、内容の充実した計画の指導を仰ぎ、全国からの参加を得て、久遠の大法城を実現したいと念願して已みません。

一、青年仏教徒の多数参加

幸にして本県では全国に先駆けて、青年学徒を中心にしたウェーサーカ祭を毎年厳修して来ましたが、来年は全日本仏教徒会議總會と共に、第十回ウェーサーカ祭を一層盛大にアッピールしたいと考え、過般椎尾讃仰会長にその旨をお話ししたところ、会長もまことに時宜を得た有意義な企てとして、全面的賛意を表されました。我等はこれを機会に年々全国に斯くありたいと願うものであります。

一、全県仏教婦人会の参加

本県にはまだ全県組織の仏教婦

人会がないので、大会を契機としてこれを組織し、多数婦人の参加を得たいと思つています。

私が仏教東漸七十周年記念に渡米した際、一番深い感銘を受けたのは、全米を五地区に分けた千五百余の仏教婦人会が、強い團結のもとに寺院を会場として、信仰を中心とした諸問題は勿論のこと、日曜学校・保育園・幼稚園・養老院等を維持経営し、教育教化の面に或は社会福祉の面にその実を挙げていることでありまして、この点現在日本の婦人会の在り方と比格するとき、我等は大いに反省させられるところが多々あります。

婦人が確固たる信仰心を持って、その家庭は自ら宗教的雰囲気醸し出し、豊かな情操によって育てられた子弟は、しらすしらすの間に宗教心を涵養されるのであります。この大会を機として各寺院を単位とした仏教婦人会を組織し、全県下の連合体にまで及ぼしたいと考えています。

一、仏骨奉安塔の顕揚

名古屋には世界にも稀であり、日本唯一の仏骨奉安塔があります。覚王山放生池の東方に金色燦として光を放つガンダラ様式の大宝塔がそれであつて、ネパールのピブラーヴァーに奉安してあつた釈尊の眞の靈骨をシャム(今のタイ)国王より贈られ、明治三十七年は現在地に奉安したものであります。今日このことを知って

総本山 知恩院

門主 岸 信 宏

- 執事長 鶴 銅 隆 玄
- 法務部長 二 本 松 聖 順
- 教務部長 山 口 真 誠
- 信託部長 谷 地 益 雄
- 庶務部長 梶 原 重 道
- 財務部長 本 田 正 義
- 執事 赤 木 定 順
- 執事 藤 田 説 量
- 執事 野 々 村 学 念

大本山 増上寺

- 法主 椎 尾 弁 匡
- 執事長 里 見 達 雄
- 教務部長 前 田 成 孝
- 内侍室長 吉 井 泰 順
- 庶務部長 吉 井 泰 順
- 財務部長 高 崎 森 暢

大本山

永平寺

横 浜 市 鶴 見

大本山 総持寺

東 京 都 大 田 区 池 上 本 町 31
ヤング・イースト社
(電話七五二一七八一)三

旧臘移転しました

移 転 先

四天王寺管長

出 口 常 順

四天王寺執事長

塚 原 德 応

会に大いに顕揚して世界的法宝に
対する一般認識を新にし、仏教信
仰の聖場とし世界の聖地と致した
いのであります。大会参加の全員
がその真前に大同団結を誓うこと
は有意義であり、更に奉安塔顕揚
対策の何等かの会が誕生致します
ならば幸いであると念願している
次第であります。

昭和八、九年帝展連続入選、日
展、文展等前後八回入選特選の栄
誉を得て現在日展評議員(愛知学
院大学教授)伊藤清永画伯は、本
校卒業の関係もあって、全日本仏
教大会の企を話したところ、氏は
その奉安塔顕揚の趣旨に共鳴し、
自ら進んで奉安塔を描写し、大会
記念のために陶都瀬戸の窯炉に額
皿の謹選を依頼することになりま
した。

一、会場について

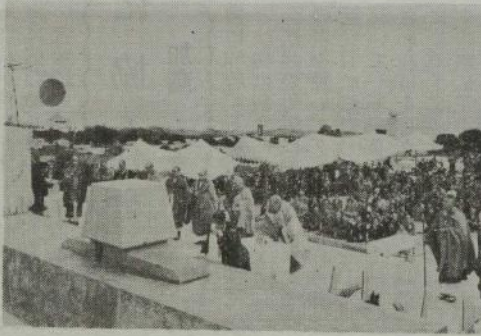
本県には約二万人を収容し得る
県体育館があり、施設完備の理想
的建築であつて会場としては申分
なく、更には「尾張名古屋は城で
もつ」と謳歌されて来た、金鯱燦
たる名古屋城を中心にした数万坪
の広域を誇る名城公園で、「仏教は
一なり」の懇親会を催して、今後
全日本仏教徒前進のエネルギーの
源泉としたいとも考えています。

難値難遇の大会々場をお引受し
て種々考を致して居りますが、要
は各委員の方々と全県下、全国の
寺院各位のご協力ご支援を得て、
画期的な世紀の大会とし、独り日
本のみならず遍ねく世界全仏教徒
敬仰の大会となることを念願して

居りますので、全日本仏教徒各位
奮つてのご参加を重ねてお願いす
る次第であります。

沖繩戦跡に遺族の涙

高橋神奈川県仏会長らが法要
既報のとおり、沖繩本島麻文仁
の丘にこのほど建立された、神奈
川之塔落成供養法要に参加した、
神奈川県仏教会高橋隆天師ら七名
の各宗僧侶一行は、十一月二十八
日空路帰国したが、同代表団の柳
下師が過日全仏へ帰朝の挨拶に立
寄り、次のような現地の法要のも
ようについて語った。



「十一月二十五日早朝羽田から
日航特別機で出発し、同日午後一
時廿九分無事那覇空港へ到着し、
一まづホテル日航で旅装を解い
た。すでに全仏を通じて連絡して
あつた沖繩仏教連合会の善国会、
長田原唯信師らがホテルへ来り、

同所で懇談し全仏会長から托され
たメッセージを手交した。

翌二十六日午後二時から麻文仁
之丘に目出度く建立された神奈川
之塔にて高橋团长神奈川県仏会長
が導師となり在沖繩各寺院住職が
随喜参加して厳やかに開かれた。
読経は開経偈につき導師祭文が
あり、ついで普門品偈、舍利礼文
が誦される間、はるばる神奈川県
から海路これに参列した六百二十
三名に上る遺族の焼香がつづけら
れた。慰霊塔は沖繩最南端の海辺
の丘に建てられているが、遺族達
は口々に「これほど厳肅な慰霊祭
をして頂き感激にたえない」と語
り、涙ながらに碑にふれいつまで
も合掌していた。なお、現地から
沖繩遺族会、民政府高官、米高等
弁務官代理など二十数名が参列し
ていた。なおこの神奈川之塔は、
面積百六十坪、総工費一千万を要
した立派なものである。

翌二十七日は神奈川県仏教会主
催により、那覇市にある松之下料
亭における沖繩仏教連合会との懇
談会に出席し、席上高橋团长から
善国沖繩仏連会長へ、金五万円也
を贈り今後の親交を誓い合い、成
功裡に帰国した次第です」と。

ミッドウェイ・クエゼリンの砂
遺族へ贈贈
海上自衛隊練習艦隊(司令官佐
賀守雄海将補)は去る六月十一日
東京港を出発し遠く南米訪問の途
についていたが十一月二日に百四
十五日ぶりに全員無事帰国した。

大本山川崎大師

平間 寺

貫首 高橋隆天

喪中につき年頭の御挨拶を
御遠慮申し上げます

大本山 成田山新勝寺

貫首 松田照応

真宗宣伝協会会長

世界仏教協会会長

月刊 世界仏教 主幹

日刊 女性仏教 主幹

栃木県日光市山内二三〇番地
日光山輪王寺門跡寺務所
輪王寺門跡

菅原 栄海

野依秀市

総本山 根来寺

座主 広沢栄孝

宗教法人 神田寺

真理運動本部

主 管 友松円諦

副主管 友松諦道

幼稚園長
東京都千代田区外神田三ノ四
電話(二五二)八六八三、五番

川越市喜多院

塩入 亮忠

献血運動に協力を

三重県仏

加藤 竜雲

献血運動又は供血或は預血でもいわゆる買血による禍をさけるために、清浄なる血液を供給する運動を、仏教徒として推進致したいと思ふのであります。

仏教徒は不殺生と慈悲に基く精神を根幹とし、人命の尊重は申すまでもない。

現在のような交通戦争と呼ばれるが如き日常生活、毎日の交

通事故の死傷者は増加するばかりであり乃至あらゆる疾患についても、血を必要とする施術が益々採り上げられて来た時に、献血による輸血の救済方法はその重要性を深めるばかりであります。

仏教徒が口業説法と共に身業説法を如実に実行出来る、吾人の尊い血の一滴を他人に供し自

僧侶の肉食妻帯に就て

福田 堯 穎

過去六十年近くの昔から公然と行われて、しかも未だそれに対する充分の解決が与えられていないのは、僧侶の肉食妻帯の問題である。これは一般僧侶の公人としての品位に関する問題であるから、是非とも明快な解決をしておかねばならぬことと思う。

元來僧侶が、肉食妻帯をしてはならぬというのは、出家なるが故

であって、出家には出家の守るべき戒法があり、その戒法には、肉食や妻帯をすることを制止してある為であって、若しそれが、在家の仏弟子である優婆塞優婆夷であったならば、肉食妻帯をしたからとて、元より仏制に触れるべきものではない。

今日わが国には出家なるものが実在するであろうか。明治政府は

かねてから南方洋上で死寂された多数の将兵の霊を慰めるため尽力している鈴木鍊成師(宮城県女川町日蓮宗妙照寺住職)は、同艦隊出発に際し、甲薛、花束等を托し、ミッドウェイ洋上等で海中に投下し戦歿將兵の冥福を祈ったが今般、鈴木師のもとにミッドウェイ、ハワイ真珠湾の砂石及び、クエゼリン島の砂が夫々とどけられた。

鈴木師はこの機会に、この砂や石を激戦地にゆかりのある遺家族に幾分でも分けて差上げたいと云っているので、お気付きの方は鈴木師へお申込み下さい。

宮城県女川町竜王山妙照寺
住職 鈴木 鍊成師

その五年九月に、苗字を公称せしむる布告を發し、同じく七年七月には、僧尼を原簿に復歸せしめ、若し原簿不明のもの、又は原簿に復歸することを望まざるものは現住地に本簿地を定めしめることとした。それ以来、古へより族称も苗字も持たず、ただ沙門某、或は積某と名乗ることになっていた僧侶が、一般人民と同様に、族称や苗字を公然名乗ることとなり、それが今日に及んでいるのである。

この明治政府のやり方は、僧という名称も廃せず、僧形をも改めしないで、全国中の僧侶を悉く還俗せしめたもので、廃仏毀釈当時の政府としては、実に巧妙な手段であったということが出来よう。そ

真言宗豊山派宗務所

東京都文京区大塚坂下町十七
管 長 長岡 慶信
宗務総長 小野塚 潤澄
教学部長 榎田 良洪
庶務部長 築山 定誉
財務部長 野々部 利行

大本山護国寺

貫首 岡本 教海
執事 小林 良弘
院代 岡田 降聖

天台宗務庁

座主 即真 周湛
宗務総長 杉谷 義周
教学部長 森定 慈紹
庶務部長 落合 高晃
財務部長 宮嶋 賢純
録事 小林 昭延

真言・天台仏具製造

田中伊雅仏具店

京都市下京区万寿寺若宮
電話京都(35)二五八四
五七六〇

建築 寺社 (株)奥谷組

社長 金森 幸太郎
(電) (37)8471・0296
京都市下京区以司町32

お地藏さまのお寺

大田山光真寺

栃木県大田原市
住職 黒田 白純
副住職 黒田 光純

れ故に、現時の僧侶を出家だと思
うのは間違であって、実は皆在家
の仏弟子なのである。在家の仏弟
子だとしたならば、肉食妻帯をし
たからとて、少しも恥ずべきこと
でもなければ、又他より非難され
る理由は毫もない筈である。

ひるがえって各宗の宗規からこ
の問題を考えたならば如何になる
であろうか。それは、真宗を除く
の外は、何宗でも肉食妻帯は許さ
れぬ処であるが、然し昔から清僧
と言われ、そうして出家の形儀を
備えたものと認められた各宗の人
々は如何なる戒律を守っていたか
と言うに、概しては、単受五戒と
称して、殺、盗、姦、妄、酒の五
戒だけを守っていたもので、五戒
の中でも酒は仏の遮戒だと言っ
て、多くは公然飲んだものであ
る。然るに、仏制に依れば、単受
五戒は、在家の優婆塞であって、
出家の仏弟子ではないことになっ
ている。

それから、単受五戒の出家なる
ものは、何時頃から、わが国に始
ったのであるか、少しく考究して
見る必要がある。単受五戒の出家
の生じた最初の根源地は比叡山で
あるように思われる。天台宗の古
い記録によると、伝教大師が、法
華梵網の二経に依る吾が国独特の
純大乘戒である円頓菩薩の大戒を
創められてから、慈慧大師良源大
僧正の時までは、一山の学僧は皆
大乘戒の律僧であったが、村上天
皇の康保三年八月に慈慧大師が第

十八代の天台座主となり、山務を
続べられた時から、始めて単受五
戒の出家僧が出来、また単受五戒
の僧でも学徳兼備のものは他の律
侶と同じく僧都、僧正等の僧官に
勅任せらるるに至ったと記されて
ある。これが恐らくは、日本に五
戒の出家僧が生じた最初ではある
まいか。今から凡そ九百何十年前
の比叡山の情態から考えると、慈
慧大師が単受五戒の出家僧を度し
たということは、極めて大胆な革
新ではあるが、然しこの大師の革
新は、やはり伝教大師の大乘菩薩
戒の精神から出たものだと思われ
る。伝教大師は、山家学生式の中
に、自利と利他との二行に精進す
る仏弟子を、西には菩薩と称し、東
には君子と号すと仰せられ、また
その力説する菩薩戒をのべて、此
戒広大にして真俗一貫すと言ひ、
菩薩には出家の菩薩と在家の菩薩
との二種があるが、法華経の中に
は此二種の人を以て同一類の菩薩
衆としておる。故にわが唱るところ
の菩薩戒は真俗一貫の大戒であ
るという意味が述べられてある。
要するに伝教大師の御本旨は農商
に従事して自利々々を行う人が在
家の菩薩であり、大乘の戒律を護
持して自利利他するものが出家の
菩薩であって、その業務とすると
ころは生活の形式には在家出家の
相違こそあれ、菩薩戒の根本精神
よりすれば自利利他の菩薩道に精
進努力する人が真の仏弟子であり
勝れたる菩薩であるとせられたら

全仏通信に関する

ア・ン・ケ・ー・ト・に見る

本会発行の全仏通信は現在その
使命が完全に果されているを甚だ
うたがわしいので基本的調査を行
い発行から配布に到るまで調整を
計るため全仏加盟団体に対してア
ンケートを依頼したところ、三十
通の回答があったので左記にその
主なる内容を掲載し、本誌愛読者
のために今後更に一層のサービ
スを努めるよう努力せんとするも
のである。

・真理運動本部 昼間 光威

機関誌の性格として、ともかく
読んでもらえるものであることが
第一と思う。その点、巻頭の取扱
いに重点を置き、その意図に従っ
て時評、記事に持ち込んだらどう
かと思う。例えば十月号の長野大
会の取扱いなど紀要として別紙編
集し、目下の問題とする点につい
て取上げるようにしたらせつかく
の紙面を有効に使うことができる
だろう。

配布の方法については二重三重
に送付されることがあるが、多く
送られても一般信徒に配布出来
る記事でもない、結局むだにして
しまう。内容を考慮して一般寺院
にも有料購読を進めたらどうか。
それには読者名簿の整理、購読の
働きかけと共に布教面に直接つな
がる内容にすることが必要と思
う。

・朝日生命仏教研習会 植松 威

全仏通信は機関誌として全仏教
会の動向を報告すると共に、全国
の信徒も購入できるように、全国
の信託らどうか、また全仏には全仏
の考え方既成宗教団体として国民
によびかける月刊雑誌を発行して
もよいのではないかと思います。

・埼玉県仏教会 北之内真龍
編集者の御苦勞が、よく解って
いるだけに申しにくいですが、編集を
もう少しうまくしてほしい。役員
の気兼、敬語の乱発が目立つ。
編集部長、編集委員をもうけた
らどうか。

・法華宗宗務院 村上日宣
宗教法人法、その他の関係法規
の改正の場合は掲載して貰いたい
その場合改正の要旨を略述する。
・神奈川県仏教会 能登有兆
もし僧侶だけに配るならば通仏
教の立場に於て仏教をやさしく説
き順序を追って在家へ把握せしむ
べき体系を持って系列を順を追っ
て毎号記載し僧職の人は判ってい
てもただちに在家へ与えて判って
もらえる位の安易な記事を表し
てはどうか、また全仏自体の要求、
要請をもっと露骨に表現して行く
べきだ、各宗本山に対してもっと精
神面協力を頼み、また各府県仏の
結成を一般に対して毎号同じ記事
でもよいからくりかえすべきだ。

・世界仏教会 野依 秀市

活字を大きくし、文面をやさし
くする。今までのようにあまりび
っしりつまっていたは読まない人
が多いのではないのでしょうか。枚

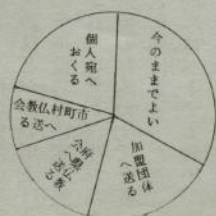
前 進 座

河原崎長十郎
座員一同

武蔵野市吉祥寺南町
三の一三の一
電話(〇四二二)
43一、一五六番(代表)

数を増してもよいから少しゆとり
のある編集をお願いします。

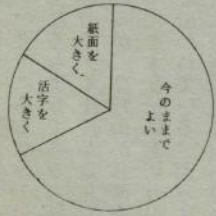
(3) 配布方法について



(2) 記事について



(1) スタイルについて



もので、必ずしも出家なるが故に、在家よりも尊しとはされなかつた如くに考えられる。慈悲大師は伝教大師のこの御精神に則り、飯令持つ処は僅に五戒だけでも、菩薩道の実行に努力するものであつたならば、それは立派な大乘菩薩僧であるとして、単受五戒の僧を得度されたように思われる。現時天台宗の律僧は別として、古へより官僧と呼び習わされている側の僧侶は、皆この単受五戒の出家であるが、他家の清僧も亦この僧風に習つたものではあるまいか。

然るに前にも述べた如く、五戒は在家の戒であるのに、それを如何にして出家の戒としたか、これも考えて見なければならぬ問題である。優婆塞戒経等に説く五戒は、仏陀が在家の為に制した戒であるから、この中には邪婦を制して、正婦を開している故に、妻帯することは元より妨げない。また好んで生物の生命を奪うことを制するだけで、肉食を禁じていない。この五戒を以て出家の戒法とすることは勿論出来ない。それ故に慈悲大師は五戒は一切戒の根本だという義と、伝教大師が梵網經の十重四十八輕戒を以て菩薩比丘の大僧戒だとされた義とによつて、梵網の十重戒の中の殺盜姦妄の四戒と、四十八輕戒の中の飲酒戒をとつて五戒となし、且つ大乘の菩薩は慈悲を本懐とする処から殺生戒の中に食肉戒を加制して組織されたものが出家の五戒だと自分は考えるものである。この五

戒の中の姦戒は、梵網の所説に従つて、正邪ともに制する故に、妻帯は出来ぬこととなり、また殺生戒に食肉が加制してある故に肉食もしてはならぬこととなるのである。

以上述べた処に大なる過誤なしとしたならば、現時わが国に於ては實際に俗僧を脱して出家しているものは一人もない。また現時の単受五戒で断肉無妻の生活をする僧風はもと慈悲大師に起つたものであるから、此際僧界は断乎として有名無実の出家僧侶の名称を廃し、菩薩の優婆塞となるべきである。そうして肉食妻帯の問題を解決すると共に、伝教大師の真俗一貫の大道に帰り、菩薩道に奮励努力すべきであると思う。飯令優婆塞となることも仏弟子たる以上は、無戒であるべき筈はないから、新たに優婆塞となつたのを機会として仏陀の所制である在家の五戒を極めて嚴格に遵守して、仮りに酒は遮戒だの、虚言も方便だなどと、不合理極まる理屈をつけて、公然犯戒して耻じざるが如き行為は、断じて廃止する覚悟を持たねばならぬ。さすれば僧界は更如一新して、今日より幾層清浄なるものとなる計りでなく、必ず社会の師表として仰がるに至ることは疑ないことである。そのみならずこの革新が動機となり、次第に持律の僧風が、社会に尊ばれることとなり、廃仏毀釈当時に布達せられた法令は、漸次に改廃せられ、戒定慧三学を完全に具備する

菩薩の大僧が、この世に再現する嘉運を衷心より切望する次第である。(元大正大学学長故福田堯顯大僧正遺稿)

浅草寺へ仏舍利

全仏これに協力

浅草寺(清水谷恭順貫主)では五重塔復興を計画しているが、今般セイロンから仏舍利を奉迎して同寺に迎えることになった。浅草寺壇入亮達、清水谷孝尚の両師は過日全仏を訪れ、全仏のこれに対する協力を求めた。それによると仏舍利奉迎には清水谷貫主大僧正を团长として、二月二十四日十二時三十分羽田発の印度航空機でマドラス経由でコロンボへ向う。

青山書院が

釈尊の生涯(漫画)出版

漫画により日本仏教の祖師方を紹介している青山書院(沢代表)ではこのほど英文による仏教漫画「ロードブッダ(釈尊)の生涯」を完成した。青山書院では全仏国際局の協力を得て毎回それらをアメリカに開教してひろく販売しているが、アメリカの某大学教授より最近、アメリカの子供達に是非これらを讀ませたいし、また学校のセミナー用にも使いたいから見本を送付された旨の書簡が、沢氏へ寄せられるなど、同書院は活発な活動を展開している。

黒田師らタイへ

三ヶ月同国で修行

既報のとおり、曹洞宗の大本山総持寺で修行中の黒田武志、石附周行両師(ともに二十九才)はタイ仏教実践の目的を以て今春出発することにしたが、全仏では両師の依頼に基づき、在タイ国日本大使館、WFB本部その他へ書簡をおくり、身元保証について依頼した。

村沢義二郎氏

(編集子)

かねてから病氣治療中のところ尿毒症のため金沢の自宅で逝去された。享年五十七才。梵人会主管。全仏では取急ぎ弔電をおくった。

今春早々送金
ダルムパーラ記念会館資金
懸案となつている、ダルムパーラ生誕百年を記念して印度カルカッタ市に建設される「国際仏教文化会館」の寄附金については、その後各宗派等から成されているが、二百五十万円に達したので、大蔵省を通じて送金の手続きがな

されている。今春早々にはカルカッタの印度大菩提会(ヴァリシハ事務総長)にとどけられる予定である。

青山書院が
釈尊の生涯(漫画)出版
漫画により日本仏教の祖師方を紹介している青山書院(沢代表)ではこのほど英文による仏教漫画「ロードブッダ(釈尊)の生涯」を完成した。

△あけましておめでとうございませう。正法弘運のため、本年も通信各位と共に努力して行きたいと思ひます。何卒倍旧の御協力御支援のほどお願い申し上げます。△会長以下全役員も決定。難産が云々されていたが、生れ出たものは指折の有能の士である。まづは乞御期待と云つたところ。△国際的にはベトナム戦争、ラオスにおける紛争等々仲々騒々しい。

△この辺で世界仏教徒の一層結束が推進されてもよさそうである。至難なことのようであるが、是非とも実現させたい年でもある。△各位の御叱声、御高見を頂戴しつつ「全仏会館」なるものを建設することもわが仏教界には必要と痛感する次第である。